



だより



R7.3.4 Vol.41

3月ですね!

毎年のことですが、3学期はほんとに過ぎていくのが速いです。もう3月!

二十四節気では「雨水」と呼ばれる時期です。降る雪が雨に変わり氷が溶け出す頃のこと。農耕を始める目安とされていたそうです。

これからの1か月は最後の参観日、お別れ遠足、6年生を送る会、卒業式、修業式と駆け足で過ぎていきます。この便りもあと2回ほどで終わりでしょうか。週1で出すと決めてがんばってきました。なんとか目標達成できるかな。

拙い便りですが、あと数回、付き合っていたけると幸いです。さあ3月も充実した月となるよう、教師、子供一丸となって、はりきってやっています!

やってみる! (たくさんの関わりの中で…)

先日、市内の某所で「卒業記念にプリクラを撮ろう!『卒プリ』」というイベントがありました。知人の企画だったので、なかなかおもしろいことするなあと思っていたのですが、よくよく話していると、ある一人の高校生の企画でした。その子は直接の教え子ではありませんが、市民ミュージカルで知り合った子で、当時、小学生でした。企画を持ち込み、スポンサーになってくれる企業を探して、市内を回り、会場のセッティングをして…と、エネルギーに動いていました。もうすぐ大人の仲間入りですが、この企画を通してたくさんのことを学んだのではないかと思います。私たち教員は、仕事柄、頭を下げて回るという経験はとても少ないです。でもこうやって、自分のしたいことを実現するために動いている子供が身近にいることにたくさんの刺激を受けました。市内で、でっかい卒業証書を見かけることがあったら、その子の企画です

四方山話真穴 ver. 其の四十一(だって教科書に書いてあるもん)

「だって教科書に書いてあるもん。」これまでの子供たちとの関わりの中で、よく聞いたセリフです。本当にそうでしょうか?教科書が間違っているというわけではありません。ただ25年程前、旧石器時代～縄文時代の歴史的事実が捏造されたものと判明し、ごっそりとその時代の記述が教科書から削除、修正されたことがありました。正しくない内容が教科書に記載されていたわけですが、極端な例をあげましたが、「そう書いてあるけど、本当にそうだろうか?」そんな疑問を持つことが新しい気付きやより深い学習につながるのだと思います。

私はここ数年、意識して書籍に目を通すようにしています。(じゃないと、つい動画を見てしまうので)テーマがあるわけではなく、目に留まったものを手当たり次第!という節操のない読み方ではありますが。ただ、それでも続けていると、「あ!この前読んだ本にも同じようなことが書いてあったな。」とか「同じことでもこんな捉え方の違いがあるのか。」とか違う本の内容が結びついたり、より多面的に捉えたりできることがあります。そして自分のこれまでの経験(主に教育分野ですね)と照らして、「そう!それだよ!俺も思っていたんだよ!」とか「いや、あなたはそう感じているかもしれないけど、俺はそうとは思わないな。」とか頭の中で筆者と対話していることもあります。年齢60が見え始め、ようやく自分らしいものが確立してきた気がします。(遅すぎ…笑)

小学生という発達段階を考えると、まずは教科書に書いてあることへの理解はとても大切です。でも教科書に書いてないことでも大切なことはたくさんあります。むしろ教科書はその一部でしかないかもしれません。これからの人生の中で、たくさんの経験を積み、人と関わり、書に触れ、自分の考えを深めていってほしいと思います。

今は多様性の時代、それを認め合う社会と言われていますが、まず自分はどう生きるのか?無条件に何でも受け入れるのではなく、自分の軸をしっかりと持って多様な考えと付き合う、認め合う、折り合う。流行りの言葉に踊らされず、流されず、本質を見究めていきたいものですね。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思っております。